

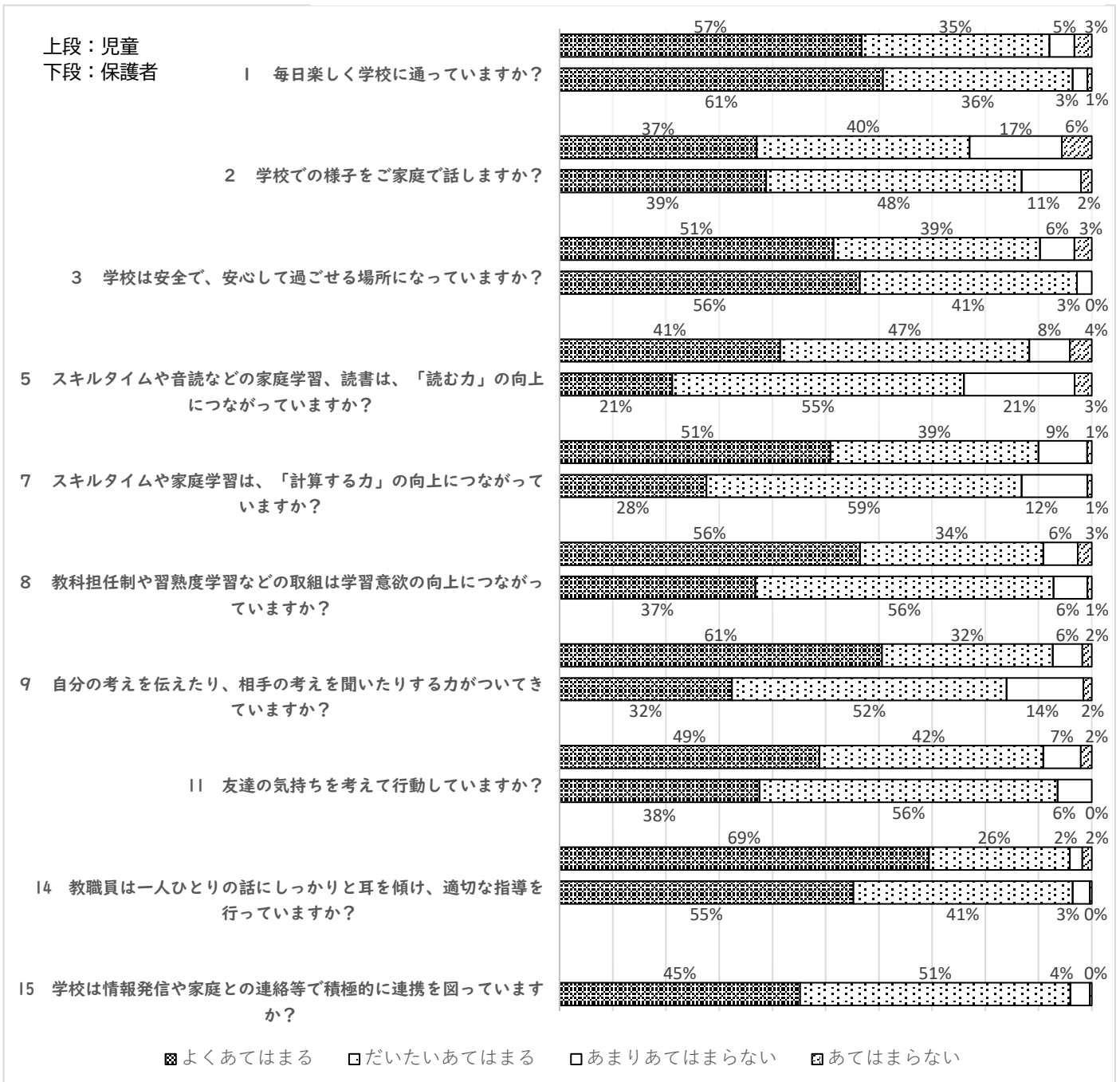
令和4年度 教育活動評価の考察とアクションプランについて

2月に実施しました教育活動評価にご協力いただき、ありがとうございました。

前期の結果を踏まえ、学校全体で、そして学年ごとでもアクションプランを立て取り組んできました。今回の結果を分析し、子どもにとってより楽しいと感じられる、充足感が味わえる、また安心できる教育活動を来年度以降も目指して取り組んでまいります。

今後とも、稲荷台小学校の教育活動にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

2月 教育活動評価結果(4・6・10・12・13は次頁以降に掲載)

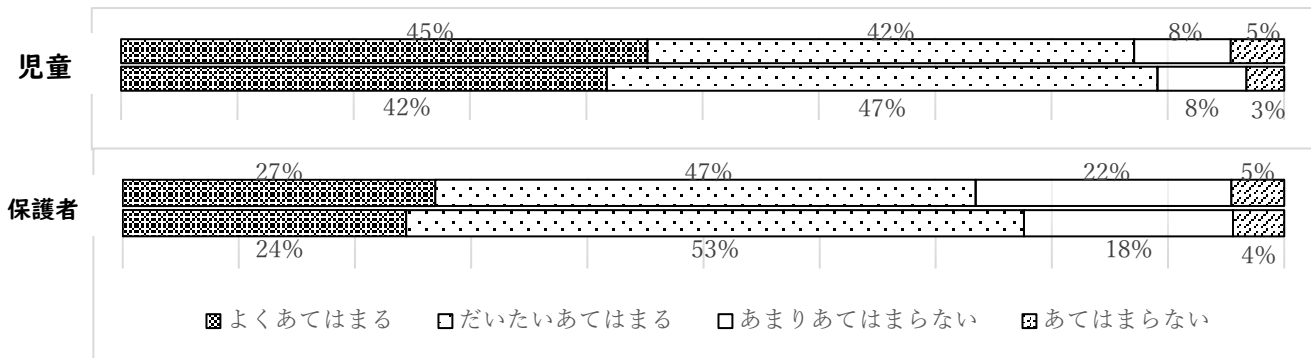


【学力向上アクションプラン】

4 課題を見つけたり、選んだりしてすすんで学習に取り組んでいますか。

上段：前期（9月）

下段：後期（2月）



《グラフから見てきたこと》

- 「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせた回答が児童、保護者ともに増加しました。また、「あてはまらない」の回答が、児童、保護者ともに減少しました。また家庭学習の定着率100%とはいかないのが現状ですが、学習に前向きに取り組むことができる子が増えてきたと言えます。

アクションプランを振り返って

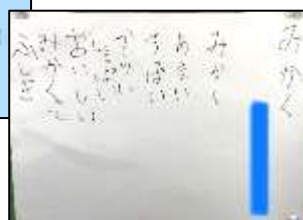
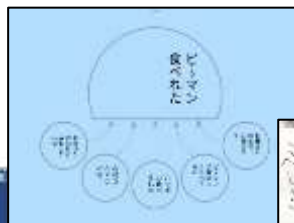
- ・学年で系統性をもたせながら家庭学習を設定してきました。学年が上がるに連れて子ども自身が選ぶ方法を取り入れたことで、進んで学習に取り組む子が増えてきたと考えられます。
- ・自主学習ノートのよい例を掲示して共有し、教師が価値付けしてきたことで、課題を選びやすくなり意欲が高まったりする効果が見られたと考えられます。
- ・ICT機器を活用し、友達同士で自主学習ノートを見合ったり、家庭学習の振り返りを行ったりしたことで、家庭学習に取り組む意識を高めることができたと考えられます。



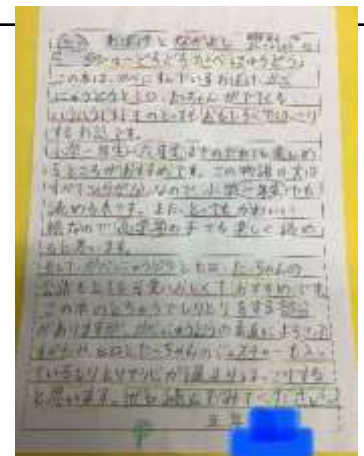
自主学習を掲示したりロイロノートを使ったりして見合いました。



ICT機器を活用しつつ、鉛筆を使って書く活動も大切にしてきました。



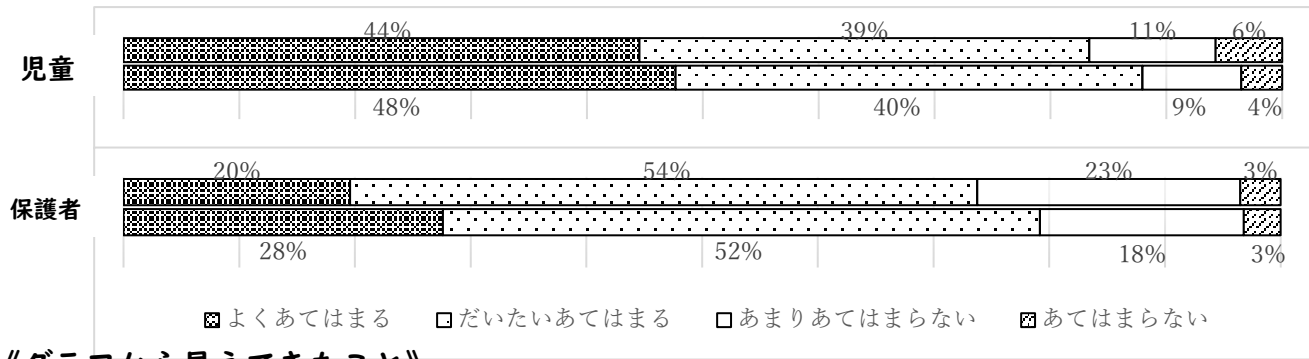
クラゲチャート(思考ツール)を使って、1年生では言葉集めを、2年生では詩の構想をしました。



6 読書、スキルタイムや家庭学習を通して「書く力」がついてきたと思いますか。

上段：前期（9月）

下段：後期（2月）



《グラフから見えてきたこと》

○「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせた回答が児童、保護者ともに増加しました。作文の分量が増え、授業で習った漢字や書き方を使って作文する子も増えています。ただし、4%の子が苦手意識をもっていました。

アクションプランを振り返って

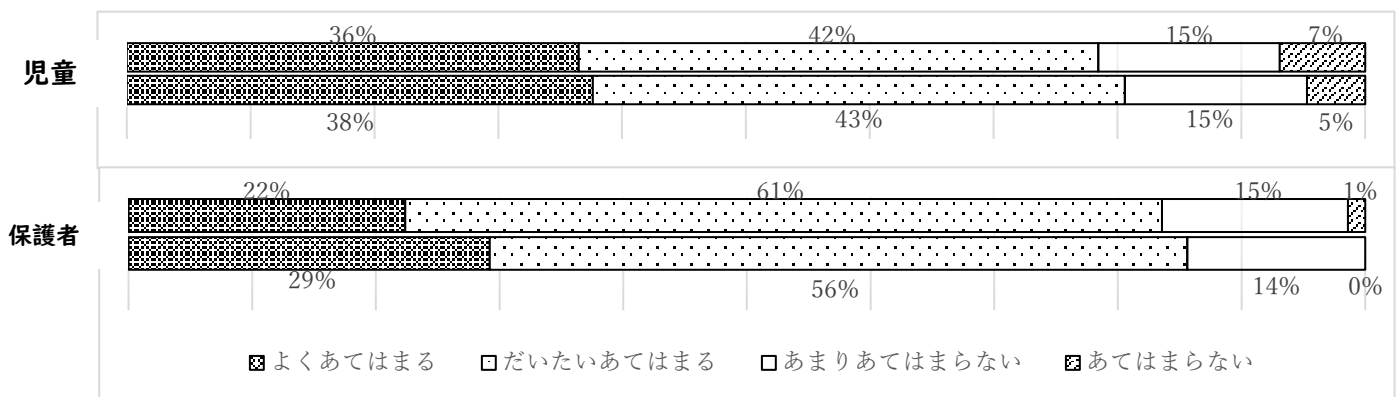
- ・週末の作文課題を全学年で継続して行ってきました。1冊使い終わった子もたくさん見られます。作文を蓄積してきたことで、達成感にもつながりました。
- ・学年、学級に応じてテーマ設定を工夫したことで、子どもの意欲を高めたり授業で学習したことを使う機会をつくり出したりすることができました。今後、個に応じた支援や指導方法を考えていきたいと思ひます。
- ・授業中、ICT機器を活用して学習することで、語彙を増やしたりタイピングで作文したりすることができました。並行して、直筆ならではのよさも見つめ直し、今後も鉛筆で書いて思いを表現する活動を大切にしていきたいと思ひます。

【豊かな心の育成推進プラン】

10 自分のよさが分かり、よさをのばすことができましたか。

上段：前期（9月）

下段：後期（2月）



《グラフから見えてきたこと》

○『自分のよさを見つけ、のばすことができましたか』に関して、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と答えた児童が8割を超えました。また、保護者の方の回答も、「よくあてはまる」が3割近くになり、「あてはまらない」がなくなりました。自己肯定感を高める活動を学年に応じて継続して行っていること、その内容を定期的に発信していることが影響していると考えています。

アクションプランを振り返って

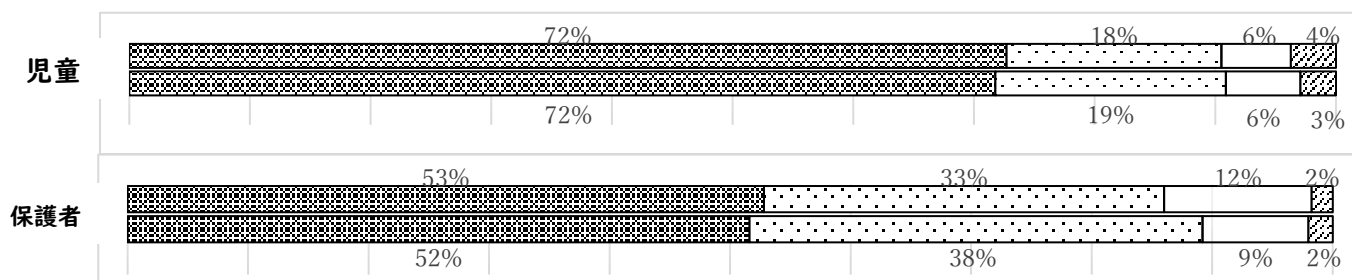
- ・友達からの「いいところみつけ」を基にした振り返りや「きょうのはなまる」などの自己肯定感を高める活動を継続したことにより、児童には自分と集団のよさに目を向ける心が育ちつつあると感じられます。
- ・縦割り活動や2学年でペアを作って活動するバディ活動を授業などに組み込むことによって、異学年の交流・認め合う時間が増えました。
- ・教職員が意識して児童のよさを見つけて伝えることによって、児童は自分や友達のよさに気づきやすくなったと考えられます。
- ・自己肯定感を高める活動のねらいや内容を隔月のキッズレポートで紹介することにより、家庭でもお子さんのよさについて話題にする機会が増えたのではないかと考えられます。

【健やかな体の育成プラン】

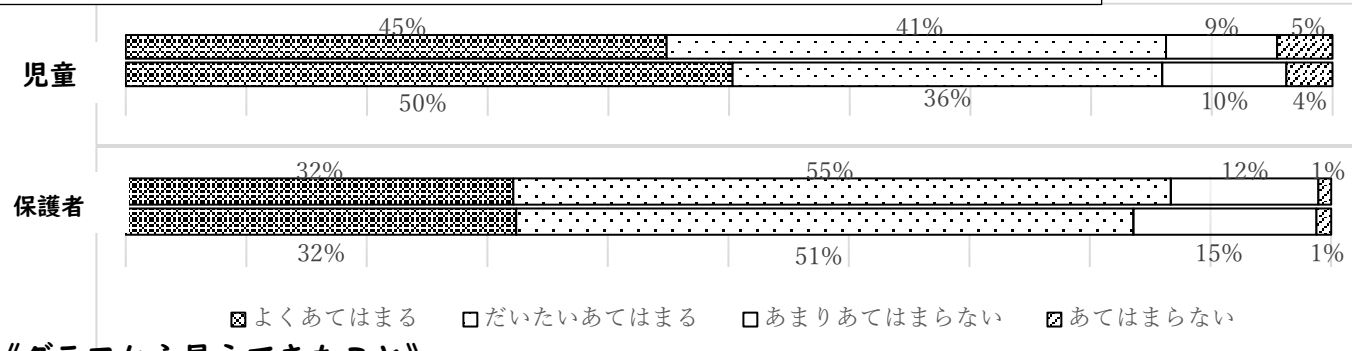
1 2 運動することは楽しいですか。

上段：前期（9月）

下段：後期（2月）



1 3 健康に過ごすことを考えて生活していますか。



《グラフから見てきたこと》

- 『運動することが楽しいですか』の項目は、前期と後期で数値的にはほとんど変化がみられません。また、保護者の評価は児童の結果よりやや低めとなっています。しかし、「だいたいあてはまる」も合わせると後期は合計で91%となっています。これは、日ごろから運動を楽しんでいると考えられます。
- 『健康に過ごすことを考えて生活していますか』については、児童の「よくあてはまる」が5%増えました。年間を通して続けた「食育タイム」は、子どもたちに「健康な生活」の意識を高める要因となったのではと考えます。保護者については、「だいたいあてはまる」が半数を占めています。質問がやや抽象的だったため、このような傾向となったのではと分析しています。次年度は、もう少し具体的な項目に絞った質問を考えます。

アクションプランを振り返って

- ・「ミニ体カテスト」を12月、1月に実施し、のべ300人ほどの児童が反復横跳びにチャレンジしました。市の平均を目標に、自分の記録を伸ばそうと、多くの児童が積極的に取り組みました。運動が苦手な児童も春より記録が伸びていることを実感できていました。運営にあたっては、運動委員会の児童が活躍しました。
- ・「食育タイム」は11回行いました。子どもたちも興味をもって参加している姿が見られました。「食育タイム」で学んだことを、給食の時間や他の教科の授業でも話題にしていました。
- ・市のスポーツ協会のインストラクターを招いて、「いい体操のコツ」を教えていただき、保健委員児童から全校に発信して、広げることができました。